

令和7年度
農業・農村の多面的機能の持続的発揮に向けた全国シンポジウム
活動組織の事例紹介

「待矢場太田広域協定運営委員会」
～活動継続は力なり～

待矢場太田広域協定運営委員会事務局
待矢場両堰土地改良区 飯塚 則幸

自己紹介

待矢場太田広域協定運営委員会

平成 16 年 待矢場両堰土地改良区入職
管理課→総務課→管理課

平成 18 年 資源保全実験事業
平成 19 年 農地・水・環境保全向上対策
平成 23 年 農地・水保全管理支払
平成 26 年 多面的機能支払交付金
令和 5 年 広域協定締結

群馬県は、日本列島のほぼ中央にあり、西北部には2000m級の山々が連なり、南東部には関東平野が開ける人口約190万人の内陸県です



特産品



こんにゃく芋



夏秋キャベツ



ほうれん草

世界遺産 富岡製糸場

日本で初の本格的な機械製糸の工場。開国直後の日本の近代化に大きく貢献しました



群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」

多面的機能支払交付金と土地改良区

待矢場太田広域協定運営委員会



【待矢場両堰土地改良区】

群馬県東部の渡良瀬川と利根川に挟まれたところに位置しています。地形は関東平野への移行部にあたるため、扇状地を形成している地域です。

水源は渡良瀬川に求めており、受益は3市3町に亘る東西25km・南北15kmの範囲の水田へ配水しています。

受益面積 約3,700ha (田のみ)

組合員数 約7,300人



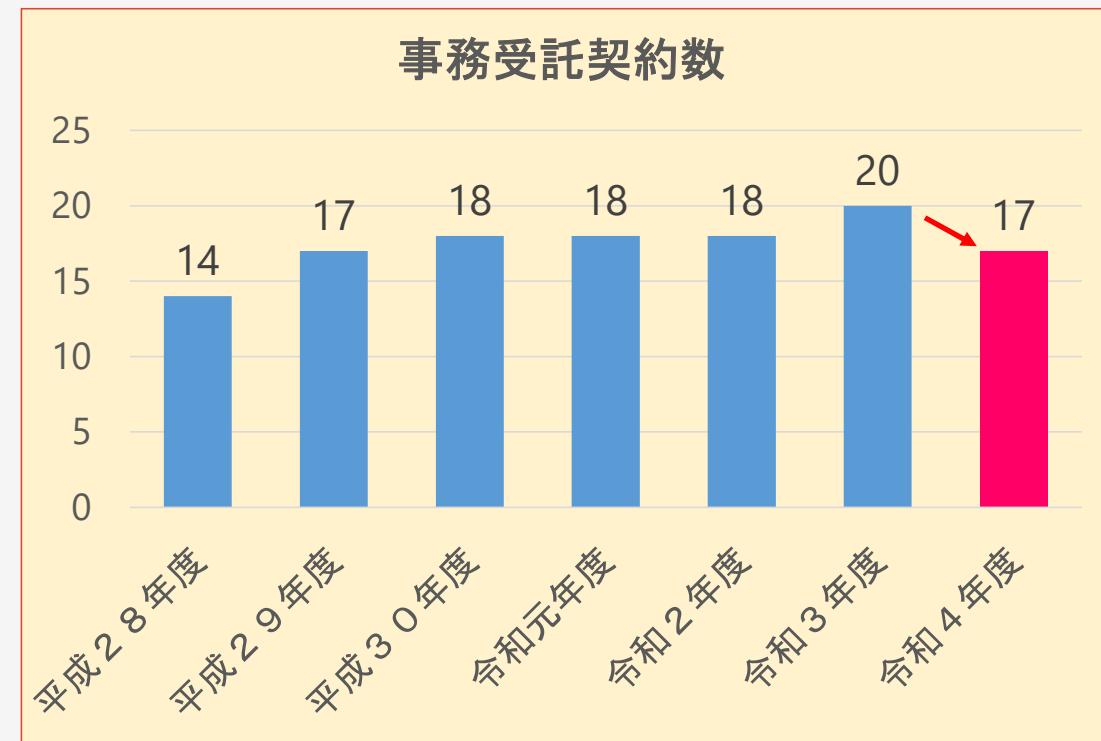
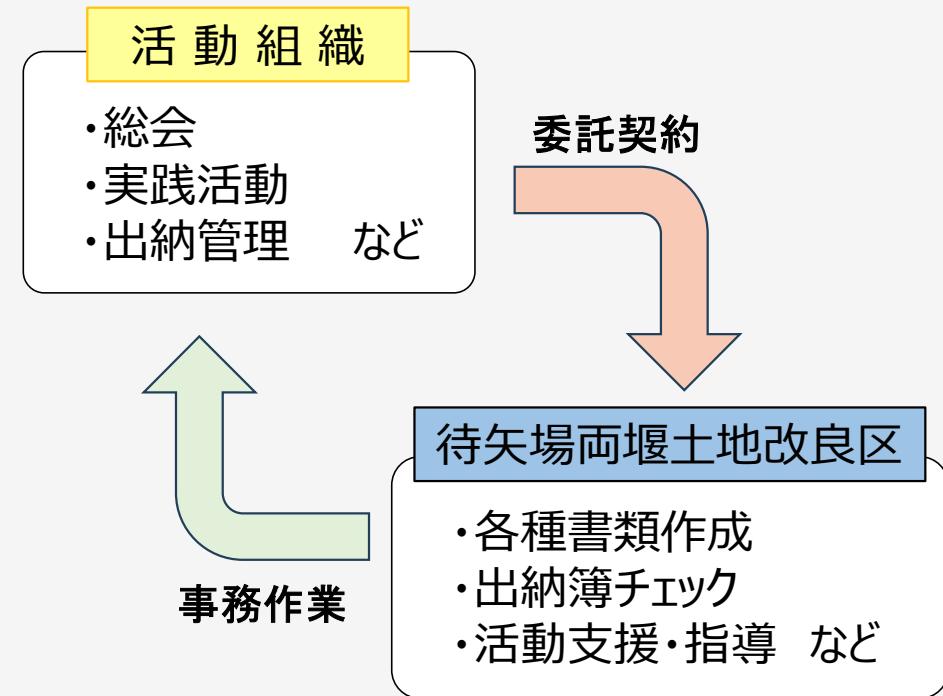
【活動組織への支援（事務受託）】

3市2町 1広域協定、13組織 (1,192ha)

多面的機能支払交付金と土地改良区

待矢場太田広域協定運営委員会

平成28年 定款を変更し、土地改良区が実施する「事業」に位置付け
これにより、正式に活動組織の事務を受託



広域協定運営委員会の設立背景

待矢場太田広域協定運営委員会

【活動継続への課題】

- 役員の担い手不足
- 煩雑な総会事務や出納事務などの負担
- 活動面積が小さく長寿命化対策が難しい



広域化を利用して
課題を解決できないか？？



事務支援を実施している土地改良区が各組織へはたらきかけ広域化を検討

活動期間も活動の性格も違う活動組織の「橋渡し」を行い、賛同のあった活動組織を
「集落」に位置付け広域化を図った

広域化によるメリット

- ・申請、報告手続きや新規加入の簡素化
- ・重要度の高い施設へ予算の重点配分
- ・小規模組織への交付金は配分で活動の継続
- ・外部団体、組織間で連携して人手不足の解消

ポイント

広域協定運営委員会の概要

待矢場太田広域協定運営委員会

令和5年度、6つの活動組織を中心に広域協定委員会を発足

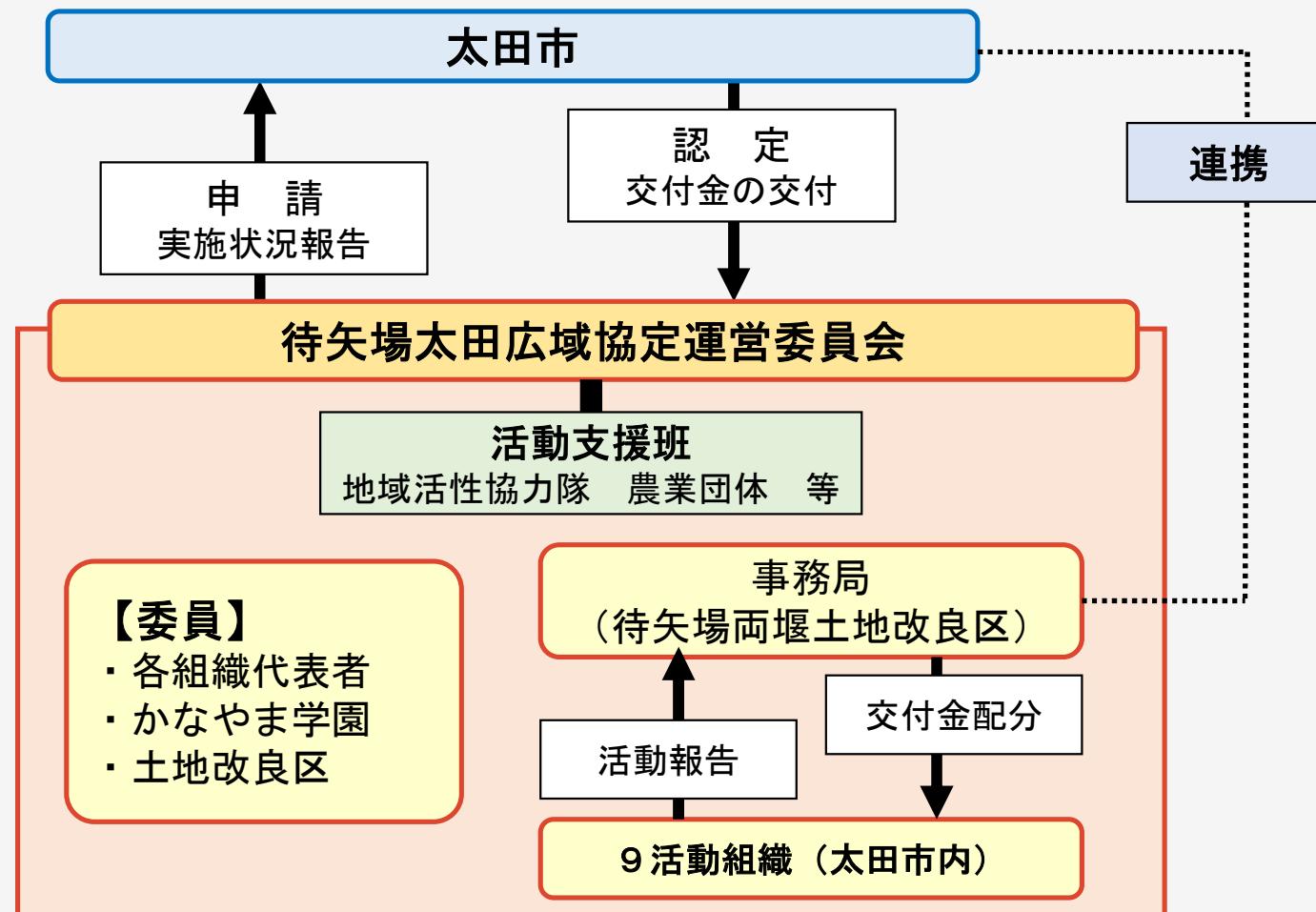
組織名	待矢場太田広域協定運営委員会
所在地	群馬県太田市
取組面積	57, 697a (田)
構成員	運営委員会委員8団体 (太田市内6活動組織、社会福祉施設、土地改良区)

令和7年度までに3活動組織が加わり、委員11団体、取組面積66, 932aまで拡大している。

各活動組織への参加団体 (活動支援班2班)	農業者：農業者の団体25 農業者以外：自治会10、子供会1、学校1 その他の農業者以外の団体6
--------------------------	---

広域協定運営委員会の組織体制と連携

待矢場太田広域協定運営委員会



○社会福祉法人との連携

かなやま学園は、委員として、水路の草刈りを実施。当事業を通して農福連携に取り組んでいる。

○大学との連携

地域活性協力隊（関東学園大）との連携「活動支援班」として活動している。

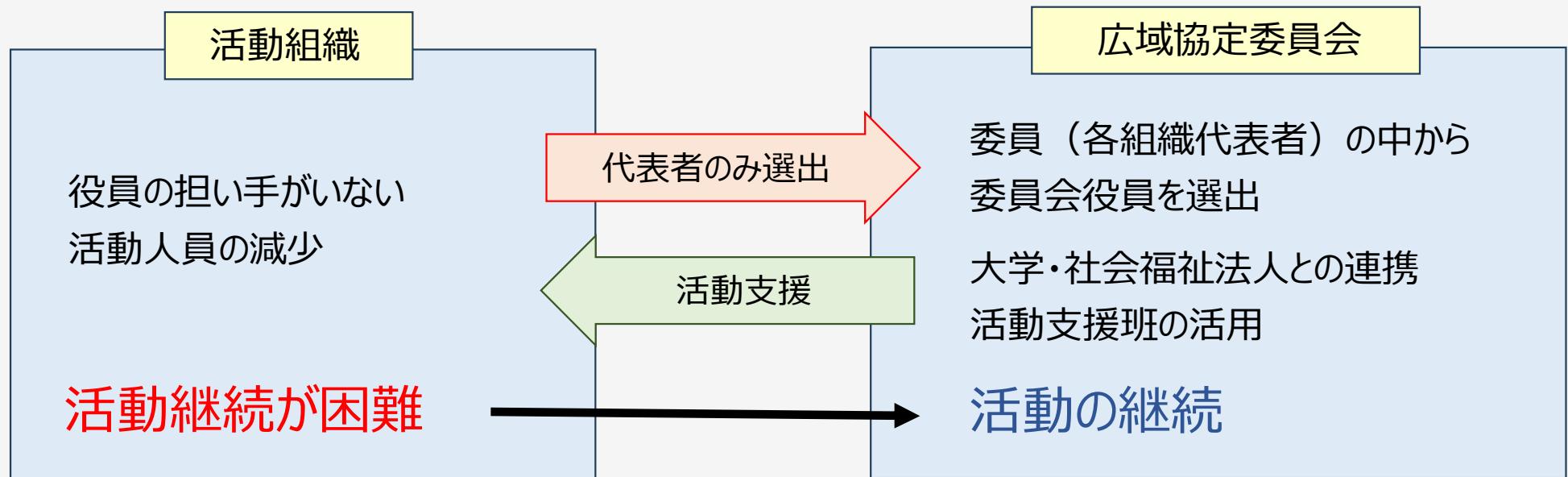
広域化の効果は？

待矢場太田広域協定運営委員会

【活動継続への課題】

○役員の担い手不足

- 煩雑な総会事務や出納事務などの負担
- 活動面積が小さく長寿命化対策が難しい

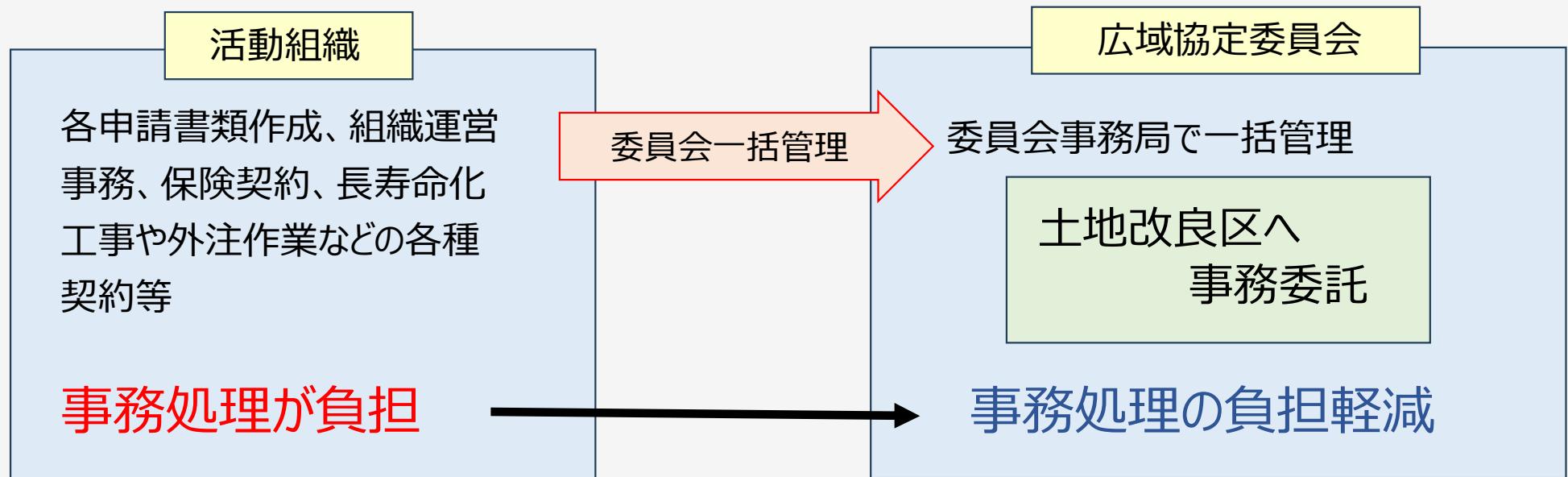


広域化の効果は？

待矢場太田広域協定運営委員会

【活動継続への課題】

- 役員の担い手不足
- 煩雑な総会事務や出納事務などの負担
- 活動面積が小さく長寿命化対策が難しい

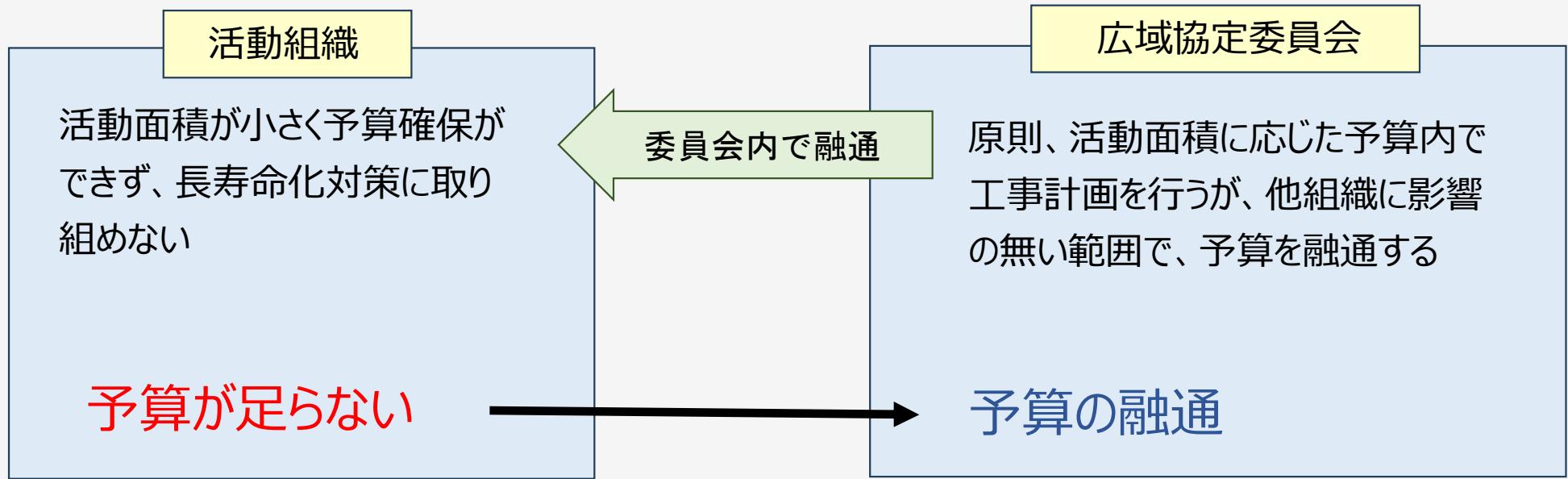


広域化の効果は？

待矢場太田広域協定運営委員会

【活動継続への課題】

- 役員の担い手不足
- 煩雑な総会事務や出納事務などの負担
- 活動面積が小さく長寿命化対策が難しい**



広域協定の運営

待矢場太田広域協定運営委員会

収入		(単位：千円)
項目	予算額	
交付金	52,000	
農地維持・共同活動	30,000	
農地維持	20,000	
資源保全（共同）	10,000	
長寿命化	22,000	
収入合計	52,000	

○主な共同活動 (環境用水の管理)

農業用水の地域用水としての利用・管理
施設等の定期的な巡回点検・清掃

(農業体験)

啓発・普及活動

(増進活動)

やすらぎ・福祉及び教育機能の活用
活動支援班による活動の実施

支出		(単位：千円)
項目	予算額	附記
農地維持・資源向上	30,000	
組織活動	20,000	(農地維持)
各活動組織		日当 購入・リース費 外注費 その他支出
集落 A	9,000	
集落 B	4,300	
集落 C	1,000	
集落 D	1,000	
集落 E	600	
集落 F	1,000	
集落 G	1,200	
集落 H	400	
集落 I	1,500	
委員会事務	10,000	(農地維持・資源向上(共同))
共同活動費	6,000	各集落が実施する共同活動 ・機能診断、施設修繕、景観形成活動等 ・活動支援班に係る経費 委員会が直接実施する共同活動 ・大学連携に係る経費 ・社会福祉法人が実施する事業
事務費	4,000	傷害保険、役員報酬、事務委託費等
長寿命化	22,000	工事費、事務委託費等
支出合計	52,000	

【交付金及び活動の状況】

農地維持	交付金	面積に応じ各活動組織へ配分
	活動	各活動組織で実施
共同活動	交付金	運営委員会で一括管理（ただし活動を実施する組織には配分）
	活動	活動組織及び運営委員会で実施
長寿命化	交付金	運営委員会で一括管理
	活動	原則、各活動組織の面積に応じた額で運営委員会が工事を計画

社会福祉法人との連携

待矢場太田広域協定運営委員会

運営委員として参加

- ・水路、農道の草刈り
(農地維持活動)
- ・施設の定期的な巡回点検・清掃
(共同活動)
- ・やすらぎ・福祉及び教育機能の活用
(増進活動)



社会福祉法人 かなやま学園



【学園の基本理念達成への寄与】

「地域の中で生まれ育った障害者は、地域
の中で自立的で幸せな生涯を送る」

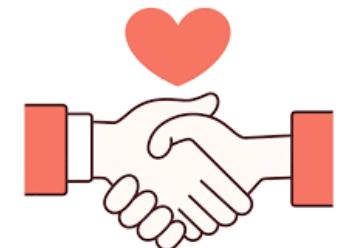
活動の実施



【施設維持管理の強化】
水路の草刈り実施による支援

農福連携

への模索



大学との連携

待矢場太田広域協定運営委員会

広域化を機に事務局と連携し活動へ参加

地域活性協力隊

(関東学園大学)

想定した活動支援

水路の泥上げや草刈り支援

点検・機能診断の支援

啓蒙、交流活動での企画運営

広報活動（ホームページ、SNS等）



大学との連携

待矢場太田広域協定運営委員会

関東学園大学 地域活性協力隊
リゾット専用米

「和みリゾット」



・リゾット米プロジェクトの活動

米作りの可能性を調査するため関東学園大学地域活性協力隊が、地元農家の協力で、国産のリゾット専用米「和みリゾット」を作っていました。



「和みリゾット」とは…

国の研究機関「農研機構」が日本米とイタリア原産のカルナローリ米をかけ合わせ品種開発した大粒でリゾットに適したお米です。

・サイトにてリゾット米販売中です!!



■調査に関するお問い合わせ

関東学園大学 地域活性協力隊 顧問
関東学園大学 経済学部 准教授 中谷淳一
E-mail : jnakatan@kanto-gakuen.ac.jp

大学との連携

待矢場太田広域協定運営委員会

研修会の実施

新入生を対象に、「水の勉強会」を実施して、用水管理と多面的機能支払交付金について学びます。



田んぼへの水の供給システムや維持管理に理解を深め、活動参加への意義を学びます。

大学との連携

待矢場太田広域協定運営委員会

泥上げ、草刈りの支援



ら水草や石、ごみなどを除去した
II写真。サークル仲間と参加した
関東学園大2年の相沢徳希さん
(19)は「臭いが強く、放置しては
いけないと感じた。良い経験にな
つた」と話した。

四ヶ村用水は蛇川で取水した水
を同市高林北町の憩川に流す農
業用水路で流域家庭の雑排水も流

農家と住民協力 四ヶ村用水清掃

運営委が呼びかけ

太田市内の農業者らでつ
くる待矢場太田広域協定運
営委員会は15日、同市岩瀬
川町を流れる四ヶ村用水を清掃し
た。地元住民や同市沢野地区の農
家、学生ら50人ほどが作業に汗を
流した。

参加者は膝まで水に漬かりなが

しておる。同委員会が現状を知つ
てもらおうと、初めて住民らを誘
つて清掃する機会を設けた。
同委員会事務局の待矢場西堰土
地改良区の飯塚則幸さん(56)は
「利用目的の違う人が協力して作
業した。今後は定期的に開催した
い」と話した。(小林大輝)



点検・機能診断等

農家と連携し実施、必要があれば診断記録作成も・・・
点検・機能診断・・・農家からの課題をヒアリングし、現地確認



非かんがい期間中の環境用水・・・定期的な巡回点検・清掃
地域用水としての利用・管理

活動支援班の活動

待矢場太田広域協定運営委員会

活動支援班の取組

機械を所有する構成員を募集。

活動支援班の役割について、理解を得て新たに活動を開始した。



活動支援班の活動

待矢場太田広域協定運営委員会

米作り体験

昨年からの米不足問題を踏まえ、農家以外の住民や子供たちへの啓蒙活動の一環として田植えの体験会を農家の協力を得て実施。



催事開催のノウハウを持つ活動支援班が計画を立て実施。初めての開催でも円滑に進めることができた。この経験を他組織へも今後拡げていく予定。

広報活動

地域の広報

活動組織発行の広報誌



回観

待矢場太田広域協定運営委員会

令和7年6月15日

古戸みどり協議会(古戸町区長)中村宏通

田植え行事の復活！ 子ども達は大喜び

多面的事業「古戸みどり協議会」開始、次回は皆様の参加お待ちしてます。

■初めての田植え、一生懸命！



■早く、大きくなあ～れ！



■お母さん方も、楽しそう



■可愛い双子ちゃんも楽しそう！



初めての田植え

五年生

私は、初めて田植えをしました。田んぼのドロドロした土に足がはき難い。お母さんと一緒に、ぴったりになつたり、お母さんが止めてきた十人が踏んでいたりしました。最初に入った時、ぬかるんだいでお指が無いと痛つきで、慣れると意外と笑っちゃうとんどんと汗を流されました。農家の方から、お米が収穫できるように成るまでに約六ヶ月かかると聞いて、学校から帰る毎に少し見てみようと思いまして。

子ども達が楽しそうで良かった



代掻き準備に感謝

広報活動

待矢場太田広域協定運営委員会

SNSを活用した広報活動



Facebookの活用



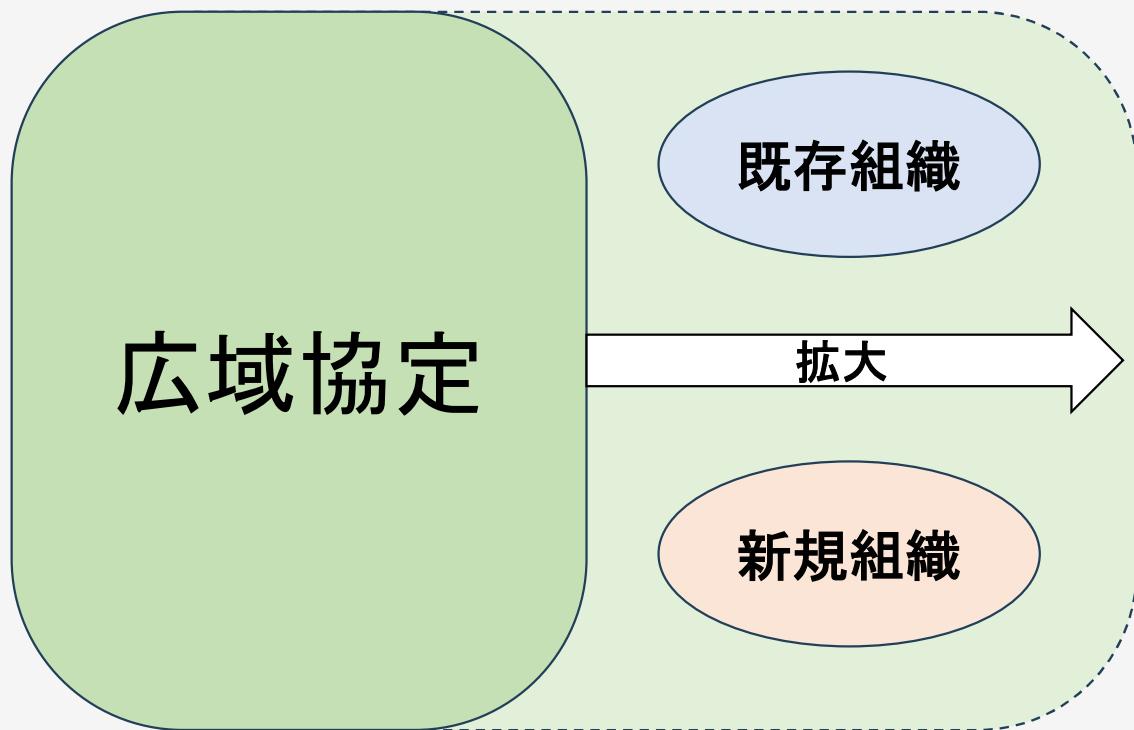
Instagramの活用



広域協定の拡大

待矢場太田広域協定運営委員会

広域協定に参加していない既存活動組織や新規に取り組み開始する集落を取り込んでいく



広域協定がカバー率向上

活動継続の受け皿

組織の負担軽減により実践活動に専念

広域協定と活動組織の役割が明確なため、新規の取組が容易

今後の展望

待矢場太田広域協定運営委員会

新たな集落の取り込み → 地域保全への寄与

耕作放棄地対策 → 米増産への寄与

田んぼダムの実施 → 災害対策への寄与

土地改良区と組合員（構成員）の関係強化

構成員ひとりひとりが活動参加に
意義を見いだしやりがいを感じる



待矢場太田広域協定運営委員会

ご清聴ありがとうございました

